

ご卒業
おめでとーございませう



日本工業大学後援会 会報

第

101号

発行 / 日本工業大学後援会

埼玉県南埼玉郡宮代町学園台四一
一〇四八〇(三)四一四二(代)
平成二十八年三月二十日
<http://nikkouenkai.jp/>

R100

2016年の春を迎えて思うこと



会長 竹中 哲喜(A4埼玉)

3月も中旬となり2016年の春を迎えようとしています。会員の皆様には日頃より後援会活動にご理解とご協力を賜り誠に有難うございます。

昨年12月、成田新学長が学長に就任されました。成田新学長のご就任を御祝い申し上げますとともに、波多野前学長には後援会活動に多大なご支援を頂きましたことに深く感謝申し上げます。成田新学長には、これまで同様の後援会活動へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、春は旅立ちの季節であり、また出合いの季節です。4年生は卒業し、多くの学生は就職して、いよいよ社会人としてのスタートを切るようになります。日本工業大学で身につけた実工学を社会で実践に移すときです。会社に入ると、同年代の同僚から40代50代の上司まで、幅広い年齢や経験の異なる人達と一緒に仕事を行うこと

になります。職場では仕事が上手くいって、良い成果がでることもあるでしょうし、思い通りにいかず結果が出ないこともあるでしょう。親としては見守ること以外には何もできません。子供たちが仕事を通して一歩ずつ成長し、技術者として独り立ちできることを願うばかりです。

子供たちが卒業して5年か10年か経った後でしょうか。一人前の技術者となり、ふと学生の頃を振り返ったとき、教育や指導を受けた恩師や職員の方々、そして両親や家族のことを思い出し、感謝の気持ちをおぼれないうちに成長してくれていると、さらに嬉しいですね。

卒業・就職という人生の大きな節目を迎える4年生だけではなく、1年生から3年生にも等しく時間は流れます。それぞれに進級し、旅立ちの日へと確実に近づいて行きます。有意義な学生生活を送ることができるよう、後援会は活動を続けていきたいと思っております。4年生のご父母の皆様、お子様が卒業されても、ぜひ日本工業大学のファンであり続けて下さい。

成田新学長からのメッセージ

自律的学習者への脱皮にご協力を

学長 成田 健一



後援会の皆様には、特別事業のキャンパス整備をはじめ、日頃から多大なるご支援を頂いておりますこと、この場をお借りして、あらためて御礼申し上げます。

から成熟社会へ移行し、以前のような人生の明確な成功モデルが存在しない時代になりました。今の小学生の半分以上は、現在はまだ存在しない仕事で将来働くようになるだろうという説もあります。今後、社会はますます複雑化・多様化し、これから社会へ出ていく世代は、次々と「答えのない課題」に直面することになっていきます。

そのような社会を生き抜くためには、教科書にある答えを覚える

のではなく、新しい課題に直面しても、それに果敢にチャレンジしているような集中力や忍耐力、そして必要な情報を自ら取捨選択し、自ら思考することで自分なりに納得する答えを見つけていく、という能力が必要です。現在、文部科学省は、このような新しい能力(社会人力)を身に付けさせることを大学に強く求めています。

しかしながら、現在の学生の多くは、「意味のあることだけを効率よく学びたい」という学習態度が強く、自ら考えさせる習慣づけを持たせようと授業を工夫しても、なかなか自ら考えようとはせず、すぐに覚えるための答えを要求してきます。そして、興味がないことは学ぶ必要がないという身勝手な割り切りも強く、一般常識に非常に弱い学生も増えていきます。

このような状況に気付くことななく、いつまでも自律的学習者にシフトできない学生は、結果として就職活動で苦戦し、人生の選択肢を狭めてしまっています。最低限、日常的に読書する態度は、大学生のうちに身に付けてもらいたいものです。意識改革のためには、家庭での皆様のサポートが不可欠です。ご理解とご協力を、是非ともよろしくお願い申し上げます。

成田 健一(なりた けんいち) 学長プロフィール

成田新学長は建築学科所属、専門分野は環境工学・都市環境。日本建築学会、日本ヒートアイランド学会、環境省、東京都などの環境関連委員を多数歴任し、長年にわたり建築分野における教育・研究に貢献しています。

【略歴】

- 昭和31年 8月生まれ 59歳
- 昭和61年 6月 広島大学大学院工学研究科 博士課程後期環境工学専攻単位取得満期退学
- 昭和61年 7月 広島大学工学部助手
- 昭和62年 7月 工学博士(広島大学)
- 平成 2年11月 広島大学工学部助教授
- 平成 9年 4月 日本工業大学工学部助教授
- 平成12年 4月 日本工業大学工学部教授
- 平成22年 4月 日本工業大学教育研究推進室長
- 平成23年12月 日本工業大学教務部長
- 平成27年12月 日本工業大学学長、現在に至る

支部だより

有意義な後援会活動

茨城県前支部長

高崎 進 (E4)



声や、地元の会員と顔見知りになれて心強いとの声もいただくなど好評でした。また、教育懇談会は、担当の教授から個別面談方式による現在の履修状況、今後の取り組み方についてアドバイスをいただくなど、学生家庭と大学の距離を身近に感じる機会であったと思います。

早いもので我が息子もこの春無事に卒業を迎え、社会人としてスタートすることとなります。振り返りますと私が日本工業大学を知ったのは、息子が進学先として選んだことからです。入学式を終え、5月に行われた後援会総会に出席しました。その時に、後援会茨城県支部役員の皆様と知り合いました。その後、役員の誘いを受け、私の後援会活動が始まりました。後援会の主な活動は、新入生説明会と教育懇談会の企画運営です。新入生説明会は、入学前に大学職員から学生生活や履修等を直接聞く絶好の機会です。また、茨城県支部では、在学生をアドバイザーとして招き、学生生活の体験等を語っていただく場を設けております。参加された父母からは、大学職員や在学生、支部役員からの様々な情報が得られ、入学前に抱える不安が解消されたとの安堵の

声や、地元の会員と顔見知りになれて心強いとの声もいただくなど好評でした。また、教育懇談会は、担当の教授から個別面談方式による現在の履修状況、今後の取り組み方についてアドバイスをいただくなど、学生家庭と大学の距離を身近に感じる機会であったと思います。

茨城県支部の会員数は現在375名です。会員数が多い分、役員としての企画運営は正直言って大変でしたが、会員の方に喜んでいただいたことが励みとなりました。また、後援会活動を通して、県内各地から集まった役員の方々との出会い、学長をはじめ大学の職員や全国の支部の方々とも交流を深めることができ、とても有意義で貴重な時間として過ごす事が出来たと感じております。

微力な私が役員を引き受けた理由は、お世話になる息子のために、少しでも大学のお役に立てればとの思いからでした。反省も多々ありますが、素晴らしい方々と学生のために活動できたことは生涯の財産となりました。ありがとうございました。

結びになりますが、これまで支えていただきました支部役員・会員の皆様、そして、大学の先生方、後援会本部の皆様にご心より感謝申し上げますとともに、日本工業大学および後援会の更なるご発展をお祈り申し上げます。

後援会活動を振り返り

岩手県前支部長

阿部 利行 (C4)



平成27年度も、地域別教育懇談会・支部総会が無事終了し、新入会員説明懇談会を残すところとなりました。これも支部役員をはじめ、後援会本部・大学側の方々の多大なご支援、ご協力の賜物と心から感謝申し上げます。

私がこの後援会と初めて接したのは、息子が本学に入学した年の新入会員説明懇談会の時でした。懇談会では、後援会事務局や支部役員の方々に、後援会活動や大学生活における注意点など様々なことを丁寧に教えて頂き、自分のそれまで思っていた大学の後援会活動についての認識と異にする親切な内容で、妻と共に共感いたしました。その席で支部役員就任の依頼をお受けしたのが始まりです。

当初は後援会活動を理解することが出来ずに支部役員会に参加していましたが、地域別教育懇談会などの活動の目的や、一

年間のスケジュール等を先輩役員からの丁寧な説明を受けていくうちに、考えが変化していききました。そのうちに後援会本部理事に推薦され、支部長も経験し現在に至っています。

この後援会活動の目的とは、大卒と保護者が協力し合い、より良い学びの場を作り上げ、学生たちに、無事社会へ巣立っていただくことであると考えています。その目的を達成させるために、後援会活動への積極的な参加が不可欠であり、学生生活や成績状況に関心を持ち、戦略的に進路を考えることが必要であると思います。後援会活動の目玉事業である地域別教育懇談会は、その事を考え、教えていただける最良の場であり、保護者同士が悩みや問題点を語り合い、不安や心配を和らげてくれる場でもあると思えました。しかしながら私共の広報不足により、会員の参加率が思うように伸びないことも現状であります。今後参加率の向上が最大の課題であり、そのための様々な施策が必要であると思っています。

この4年間を振り返ってみますと、後援会活動を通じて様々な方々との貴重な出逢いがありました。活動への取り組みや話し合いの中で、様々な意見や、今迄自分では気付かなかった関心や学習があり、私にとつての大事な財産となりました。また、

このような機会を与えて頂きました皆様には大変感謝申し上げます。今後益々、後援会活動を通じ、本学が発展・進化していただけることを期待しています。

大団円に終えられました

新潟県支部長

石塚 毅 (A4)



国道18号線、妙高高原駅と関山駅の間道にあり、いつもは何気なく見て通り過ぎる赤倉山荘への案内看板を、この日は何故か意識し、「日本工業大学ってどんな学校かな？あいつに合うだろうか？」、助手席に居る女房への何気ない一言からこの大卒との縁が始まります。

その後、「新入会員説明懇談会」へのお誘いが開催日前日の夕方（一般入試での入学であったため連絡がギリギリになったとのこと）に来ました。とても熱心に会について説明されるので参加させて頂くことにし、その後は支部の幹事となる道筋もつけて貰うこととなりました。この時、2年目にはフェードアウトする

つもりだったのですが…。

さて、後援会といえは「地域別教育懇談会がメイン行事となりますが、1年目では生活面まで答えて頂き、熱心な先生方なのだなと感心しました。その時の学年に応じたことを素直に尋ねられる機会にしようと、親として子供からの質問も持って、以降3回の面談に望みました。面談終了後は息子に連絡を入れ、それぞれの立場で秋学期に向けての確認及び準備ができました。普通高校からの進学のため不安もありましたので、在学中、関心を持ち続けるには本当に良い機会となりました。

支部の活動では、強力な、そして個性的な方が居るなあと思っておりまして。が、本部理事会を通して知ることができた他支部の方々の情熱も半端ないことを知ることができました。この素敵な個性を、これまでずっと纏められている本部事務局の皆様にも大変お世話になりました。2年目のことです。支部の事務局となったお盆休み中のことでした。隣の長野県支部での地懇に参加を希望される方から電話がありました。過去の事例が確認できず、本部事務局に相談だけでもメールを入れたところ、あつという間に段取って頂けましたっけ。「海は荒海、向こうは佐渡よ」

と歌える地に住む私ですが、日本工業大学がこれからの荒海に立ち向かい、縁の始まりとなつたあの看板が、あの場所で見続けられることをお祈りし、感謝の言葉とさせて頂きます。

最後に、息子の4年間の学生生活も大団円を迎えることができそうです。本当にありがとうございます。

ありがとう！日工大後援会

北陸前支部長
尾崎 雄一 (M4)



「日本工業大学??」北陸の富山県在住で、しかも文系の私にとつて、息子が行きたいと言ってきた本学は正直初耳でした。しかしながら息子が自分で選んだ(先生の指導?)学校だし、何より本人のやる気が一番大事と思いついてみることに…実際に大学を訪れてみると、私自身も規模の大きさや環境等が気に入りました。

そして運良く合格の知らせをいただいたところ、後援会入会の知らせも届きました。「大学生になって父兄の後援会?」と最初は不思議な感じがしましたが、北陸支

部の新入生説明会に参加し、これは良いかなと思いました。その途端、当時の支部長から次期支部長にとの内示があり、息子のためならと引き受けた次第です。

本部理事会をはじめ、支部の総会、地域別教育懇談会など後援会活動に参加し始めると、これが中々に面白い。何と言っても懇親会で各地の銘酒が飲めるし、各支部の方々と親しくお話しできると、息子よりも本学にのめり込んでいった感じがします。そして、僣越ながら昨年から本部役員を仰せつかり、各支部の総会・懇親会等にも参加させていただけました。その節は大変お世話になり、この場をお借りして御礼申し上げます。

一方、息子も一人暮らしをして、かなり自分のことは自分でやるようになり、本学で随分成長させてもらいました。私もこの年になって、とても有意義な経験をさせていただき、後援会活動に携わられて本当に良かったと思っております(本学を選んだ息子に感謝)。

あつという間の四年間でしたが、後援会が今後益々発展し、会員相互の懇親がより一層深まることを心よりお祈りいたします。重ねて、お世話になった役員・理事・各支部の皆様、先生方、そして最も感謝すべき事務局の皆様には厚く御礼申し上げます。楽しい思い出を本場にありがとうございます。

新入会員説明懇談会

各支部主催で16会場で開催



茨城県支部会場の様子

「新入会員説明懇談会」は、この4月から本学に入学される学生のご父母を対象に実施している説明会です。後援会支部主催で企画・開催しているため、同じ経験をされてきた先輩ご父母の生の声を伝えることができ、アットホームな雰囲気の本会の特長であります。

「大学と家庭との架け橋」という重要な役割を担う後援会は、学生の成長を大学とともに応援し、見守っていくというスタンスで今後とも活動を続けていきたいと思っております。

平成28年度新入会員説明懇談会開催一覧

開催日	主催支部	開催会場	大学側出席者
2/28(日)	新潟	じょいあす新潟会館	穴井正洋 教務課主任
3/6(日)	北陸	富山電気ビルディング	林 祐司 教務部事務副部長
〃	静岡	アイワンホール	江原慎一 入試室主任
〃	青森	青森国際ホテル	大塚竹郎 総務課長 (庶務担当)
〃	蔵王	ホテルキャッスル	吉見健二 学生支援課主事
〃	福島	清稜山倶楽部	鈴木良裕 学生支援課長
〃	茨城	筑西ダイヤモンドホール	初見範子 就職支援課長 山本好央 財務課主任
〃	長野	ホテル信濃路	塩入 修 就職支援課主任
3/12(土)	秋田	秋田温泉さとみ	倉島清隆 総務部長
〃	沖縄	沖縄県青年会館	鈴木史朗 財務課主任
3/13(日)	岩手	北上市さくらホール	齊藤 望 入試室課長
〃	栃木	ホテル丸治	日下部恵美子 教務課長 吉田有美 教育研究推進室主任
〃	群馬	高崎ビューホテル	江原里織 学生支援課主任 山田隆司 財務課主任
〃	山梨	ホテル春日居	武井 孝 学生支援課員
〃	東海	安保ホール	磯 雄二 財務課長
3/27(日)	千葉	学友会館	佐藤建夫 財務部長 田中大介 施設環境管理課主任 井上直 教務課員

平成27年度 環境分野研究奨励助成金採択研究テーマ

日本工業大学は、平成13年6月に国際環境規格「ISO140001」の認証を取得し、全学をあげて環境問題に積極的に取り組んでいます。本会は大学の掲げる環境方針に賛同し、かつその推進に協力するため、平成14年度より環境に関する研究に対し「環境分野研究奨励助成」を設け、助成を行っています。本年度は、以下の4件が採択されました。

研究テーマ及びチームの構成		研究期間	研究の概要	助成額(円)
1	研究テーマ ホコリセンサを用いた環境汚染物質の可視化システムの開発 研究代表者 鈴木 清太郎 教職員 ：情報工学科 勝間田 仁、松田 洋 学生 ：C科2年 木村隆寛、小西大気、柴田尚明	平成27年 7月 1日 ～ 平成28年 3月 1日	本学の環境コア科目を受講し、環境汚染物質が体に影響を及ぼすことを学んだ。そこで、学内の環境汚染物質の値を計測し、情報を発信するシステムを開発しようと考えた。本システムでは、ホコリセンサなどを用いて計測した環境汚染物質の値を可視化しデジタルサイネージで発信する。それによって、環境汚染物質に対する個々の対策を講じることが目的としている。	250,000
2	研究テーマ 学内ビオトープの保全に向けた動植物プランクトンの調査研究 研究代表者 佐野 健一 教職員 ：創造システム工学科 佐野健一 学生 ：S科3年 飯島 加奈子 S科2年 門井 千夏、鹿山 喬進	平成27年 9月 1日 ～ 平成28年 8月31日	これまでも学内水系ビオトープのひとつである池の水質調査は、おこなわれてきたが、池の水質・生態系の保全を念頭において適切に管理するためには、動植物プランクトンの生息・生育状況を調べる必要がある。本研究では、池の管理上の分析・評価に活用されることを目的として、動植物プランクトンの季節毎の生息・生育状況を調査する。また学生が本調査研究の実験を通して、本学の環境教育においてあまり触れられなかった生態系についての学修機会を提供する。	250,000
3	研究テーマ 日本工業大学周辺における遺伝子組換え植物の屋外調査 研究代表者 芳賀 健 教職員 ：共通教育系 芳賀健 学生 ：P科1年 岡村 俊平、小林 智成 細野 芽依	平成27年 9月 1日 ～ 平成28年 8月31日	近年、日本にも様々な形で遺伝子組換え作物が輸入されている。特に、種子の形で輸入された場合、輸送中にこぼれ落ちた種子が発芽し、日本の各地で自生していることが確認されている。遺伝子組換え作物の一つであるナタネも、その例外ではない。本研究では、日本工業大学周辺に遺伝子組換えナタネが自生しているかどうかを調べることで、日本における組換え作物の広がりを調査することを目的とする。	250,000
4	研究テーマ キャンパス内地中熱利用による省エネ可能性に関する研究 研究代表者 雨宮 隆 教職員 ：ものづくり環境学科 雨宮隆 学生 ：P科4年 渡邊 真人、山口 健太郎 小峰 剛、安倍 和希	平成27年 9月 1日 ～ 平成28年 8月31日	学内の省エネを今後さらに進めるための次のステップは空調エネルギーの節約であるが、このためにキャンパス内の地中熱の利用が有効であるかを調査する。 過去のボーリング調査でキャンパス内土質は軟質高水位で地中熱配管を配設し易いことがわかっている。具体的な研究は、キャンパス内数か所の地表下数mの温度変化を年間に亘り観測し、地中熱を利用した場合の省エネ可能性を分析する。 さらにこのうち一か所を選んで、実験的に空調ヒートポンプシステムを設置し、循環水を使った実際の省エネ効果を評価する。これを本格的なキャンパス内地中熱利用のための基礎データとするともに、エコミュージアム展示の一環とする。	250,000

後援会行事抄

- 平成二十七年十二月十五日(火)
 後援会会報100号発行
 十二月十三日(日)第二十二回吹奏楽団定期演奏会
 十二月六日(日)～七日(月)宮代会臨時総会(御殿場)
 十二月十日(木)～十二日(土)エゴプロダクツ2015に出展(東京ビッグサイト)
 平成二十八年一月十日(日)大学後援会・工友会・宮代会合同新春懇親会(ハイアットトリージェンシー東京)
 一月三十日(土)学生自治会主催 新成人講演会
 二月二十日(土)サービスタワー連絡協議会、天満宮例祭
 二月二十一日(日)役員会、理事会、特別事業委員会
 二月二十七日(土)留学生別科修了式
 二月二十八日(日)～三月二十七日(日)新入会員説明懇談会※3頁参照
 三月七日(月)～十日(金)学内合同企業説明会
 三月十二日(土)秋田県支部総会
 三月二十日(日)学位記授与式

相談票

学科学年	
学籍番号	

学 生 氏 名	
会 員 氏 名	
連絡先	TEL

相談票をご利用下さい

後援会では会員各位にこの相談票を通して、いつでも学生の成績・生活・就職等ご相談に応じられる窓口を開いています。
 右の票(便箋、ハガキでも結構です)に相談されたい事項や、ご意見、ご希望等、記入の上、事務局宛にご送付下さい。可能ながぎり回答します。
 (ご意見・ご投書・ご寄稿もどしどしお寄せください。(事務局))